

科目ナンバー	D9204	要件	保育必修	授業形態	講義	対象学生	Ⅱ AⅢ C D
授業科目	保育実習指導Ⅱ						
実施期	前期	単位数	1単位	授業担当者	飯田 恵美子・西田 外美江		
【科目の概要】							
二次実習に向け一次実習の経験を踏まえ、目的や自己課題を明確にする。また、保育計画や乳幼児の発達及び関わりの理解を深め、保育者の役割を考えながら専門性を高めていく。実習後は自己評価や反省を基にスキルアップを目指す。							
【この科目を通して獲得を目指す力】							【関連DP】
ア	子どもの発達、実態に即した関わり方や援助の方法、保育技術などを身に付けている。						1-d
イ	手遊び、歌、表現・造形遊び等、発達に応じた方法を習得し実践できる。						2-d
ウ	子どもの発達を基に指導計画を立案し、責任実習につなげることができる。						3-d
エ	実習担当者の指導を受け、反省・評価を基に自己課題を明確にし、保育者としての自覚をもち専門性を高めようとしている。						4-d
【授業の内容】				【実施日】	【授業時間外学習の内容】		
1	一次実習の反省、評価、自己課題			月 日	実習経験についての話し合いをする。		
2	保育実習における指針や発達との整合性			月 日	保育指針第2章発達について読み直しをしておく。(1時間)		
3	指導案作成について(ねらい、内容、環境構成、活動、援助)			月 日	実習の手引きの該当ページを読んでおく。(1時間)		
4	指導案作成について(部分実習)			月 日	年齢に応じた内容を考えて書けるようにする。(参考図書持参)		
5	指導案作成について(一日実習)			月 日	一日の流れを理解して書く。(参考図書持参)		
6	手作り教材作成(グループワーク)			月 日	教材作成についてグループで話し合う。		
7	手作り教材作成(グループワーク)の発表			月 日	作成した教材を仕上げきて、発表する。		
8	二次実習前準備(事前訪問内容・心構え・オリエンテーション・実習課題)(レベルチェック)			月 日	オリエンテーションの項目を確認し、実習園の概要を調べておく。		
9	実習を振り返って・・・(1)実習での経験と自己評価及び反省			月 日	実習の手引きの該当ページを読んでおく(103p～104p)。		
10	実習を振り返って・・・(2)グループワーク(学びや反省)			月 日	実習中の学びや反省を基に対処法について話し合い、意見をまとめ記録する。		
11	実習を振り返って・・・(3)グループワーク(発表、質疑応答)			月 日	グループ発表を基に質疑応答をし、共有を図る。		
12	教材研究と演習			月 日	模擬保育に必要な教材を考えて準備しておく。(1時間)		
13	模擬保育(部分保育をグループで一人ずつ演習)の発表			月 日	保育の流れをシュミレーションしておく。(1時間)		
14	模擬保育(部分保育発表を通して他の人の保育の評価と自己反省)			月 日	模擬保育を通して、保育者としての自覚を高める。		
15	保育者としての成長			月 日	自己課題を自覚し、解決努力をする。		
16	多様な保育ニーズと保護者支援…レポート作成			月 日	実習日誌を読み直し復習しておく。(0.5時間)		
【教科書・テキスト】				【成績評価の方法】			
実習の手引き(本学発行)				レポート、発表、学習態度・意欲等の履修状況		50%	
				指導案、模擬保育		50%	
【参考書・教材】							
保育所保育指針解説書(フレーベル館)							
保育指導大百科事典(一藝社)							
【履修要件及び履修上の注意事項】							
予習・復習は必ず行うこと。							
欠席した時には必ず授業内容及び提出物の確認にくること。							
【履修上の遵守事項】							
提出物は期限厳守。							
20分以上の遅刻で1回欠席とみなす。							
【連絡先・オフィスアワー】							
連絡先: N13				オフィスアワー:			

＜チェックシート＞					
指標		基準	レベル 1	レベル 2	レベル 3
ア	子どもの平均的な年齢別発達を基にした乳幼児理解	子どもの発達や実態に合わせての関わり方がわかる。	子どもの平均的な発達を基に、子どもの様子や行動に応じて援助ができる。	子どもの様子から心身の状態や発達を考察して保育する等、乳幼児理解の大切さがわかる。	
イ	子どもの発達に即した保育技術の習得	手遊び、絵本、造形等、年齢に合わせての保育方法がわかる。	実習に必要な教材（手遊び・歌絵本・表現活動等）を研究し、保育技術を高めようとしている。	子どもの年齢や実態に応じて、様々な保育方法を使い指導ができる。	
ウ	責任実習（部分、一日）の指導計画の作成力	責任実習の指導計画の書き方がわかる。	子どもの姿を思い浮かべ指導事例や資料を参考に、乳幼児期に必要な活動について理解している。	子どもの姿を通して、ねらい、内容、活動、援助等を考え、指導計画を作成し責任実習につなげることができる。	
エ	保育実習を通して自己課題の明確化と保育者としての向上心	実習日誌や実習評価を基に、積極的に参加できたか振り返り自己評価を行う。	保育者としての社会的立場を意識し、人間性を豊かにし、専門職としての自覚をもつ。	実習での評価、反省から今後の自己課題を更に明らかにし、保育の専門職として向上心を持っている。	
この科目を通して学んだこと、獲得できた力、できなかった課題等					